

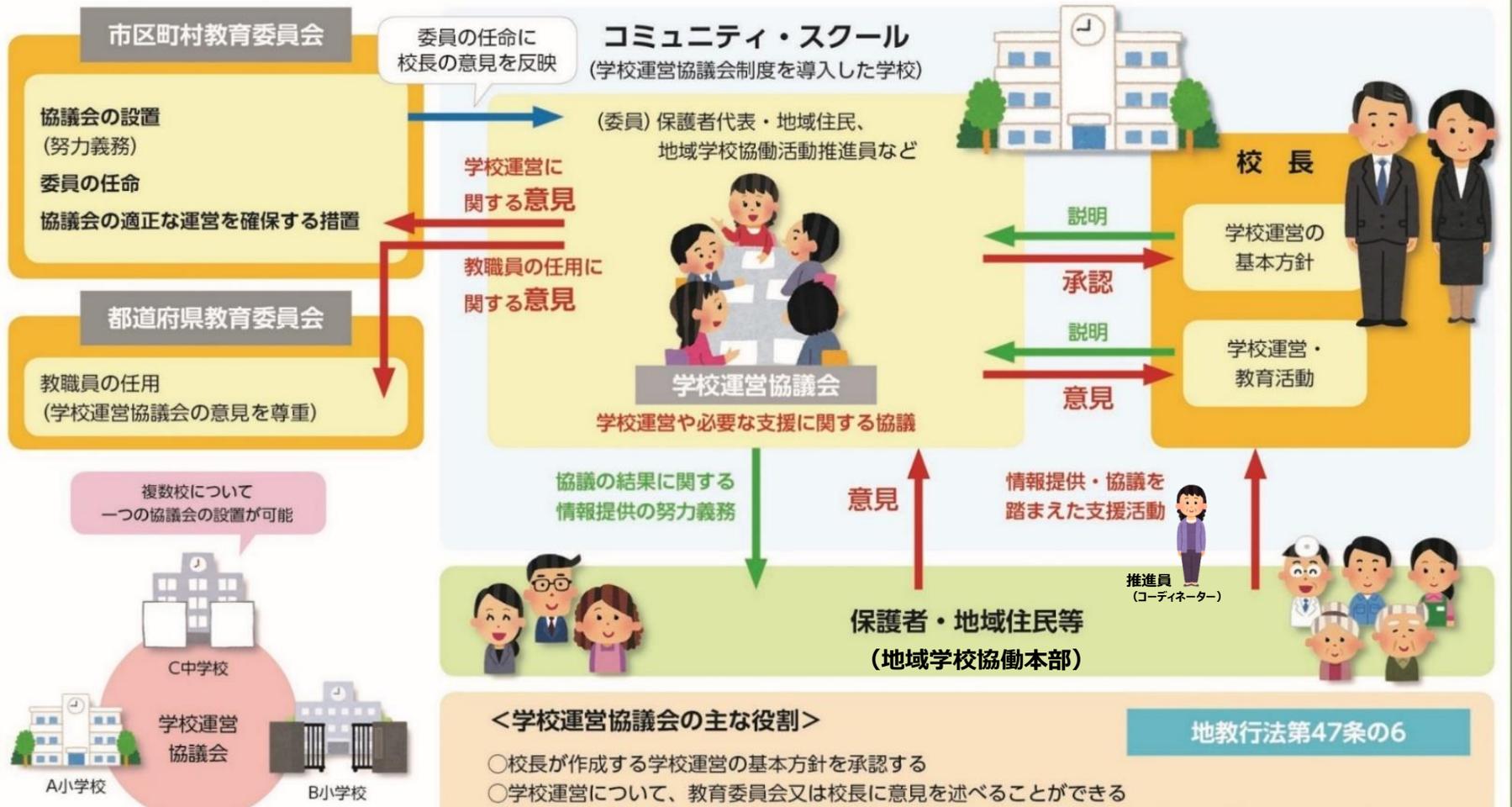
総合教育会議 資料

地域づくりとコミュニティスクール
について

鈴鹿市教育委員会事務局
教育支援課

コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) の仕組み



コミュニティ・スクールは、**育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを保護者や地域と共有し、目標の実現に向けてともに協働していく仕組み。**

「鈴鹿型コミュニティ・スクール」



学びのネットワークづくり

夢工房～達人に学ぶ～
平成17年度、その道一筋の方を達人とする取組を始める。

学習支援ボランティア
平成16年度、1校30名で学習支援ボランティアの活動が始まる。

平成16年度
平成17年度
平成18年度
平成19年度
平成20年度
平成21年度
平成22年度

安全安心のネットワークづくり

安全安心ボランティア
平成17年度、鈴鹿市青少年対策推進本部設置とともに充実強化。
平成17年度、まず15校でパトロール隊の組織がつけられる。

「鈴鹿市教育振興基本計画」策定

平成20年度「学校支援地域本部事業」の活用

教育振興基本計画
学校評価

- ◇二次募集
・・・3中学校区10校でスタート
- ◇五次募集
・・・5中学校区20校に拡充
- *学校のニーズに応じた地域ボランティアの参加が広がる。

- ◇すべての学校区で「学校支援地域本部事業」を実施
- *学習支援ボランティア・・・1,144人
 - *安全安心ボランティア・・・4,535人
 - *「夢工房」達人・・・48人
 - *職場体験学習協力事業所・・・611箇所
- *地域コーディネーターを中心とした地域の主体的な学校支援のネットワークが充実する。

平成23年度
鈴鹿型コミュニティ・スクール

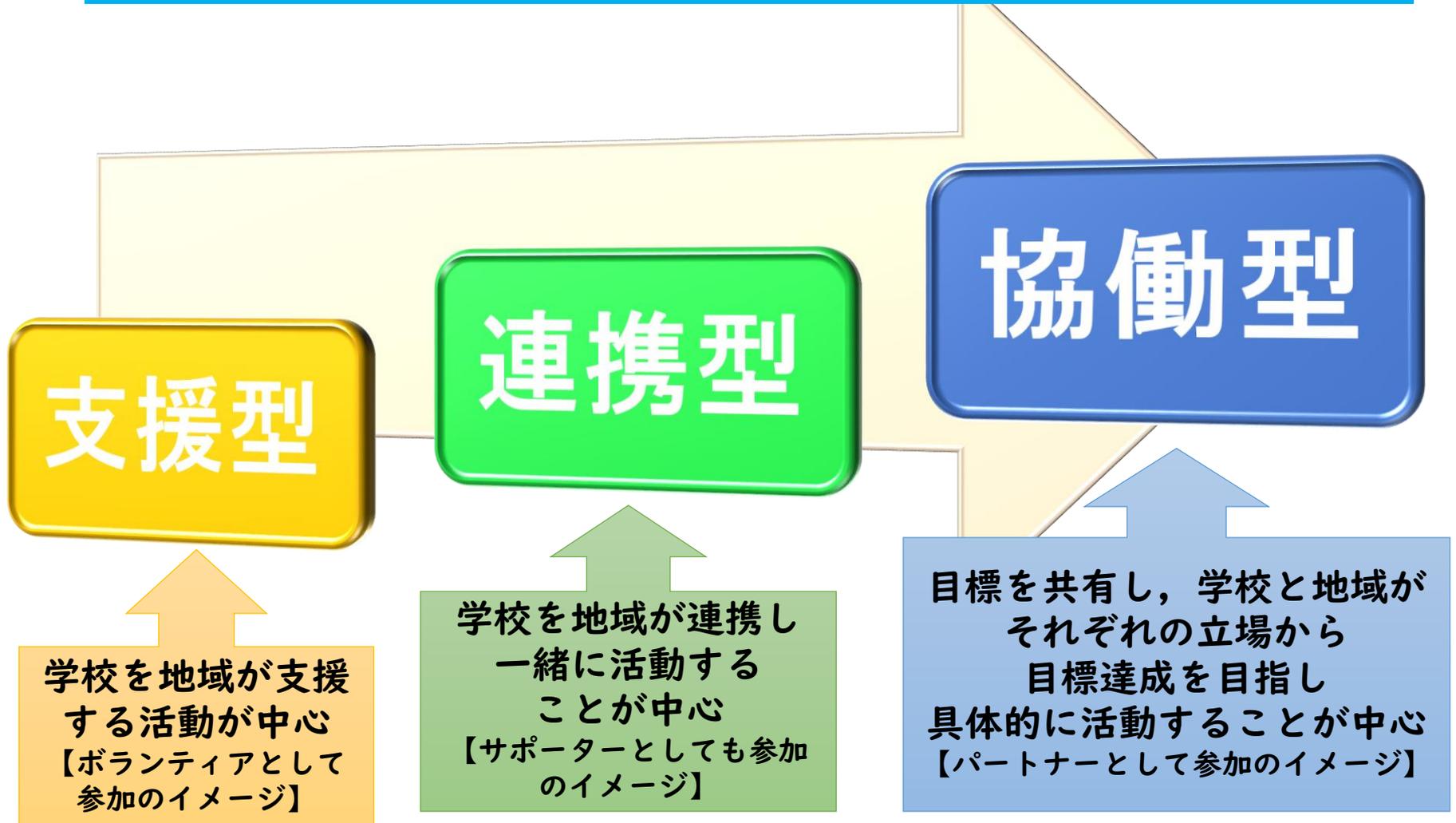
学校運営協議会

- ◇保護者や地域住民の声を反映させた、より良い学校づくりを目指した熟議
- ◇保護者や地域住民による様々な学校支援
- ◇学校力を生かした子どもたちによる地域貢献



協働型 コミュニティ・スクールとは？

地域とともにある学校づくり



協働型 コミュニティ・スクールとは？

地域とともにある学校づくり



育てたい子ども像や目指すべき教育ビジョン
「地域の子どもたちにどんな力をつけたいか？」
誰もが理解しやすい共通の目標

～ 共通の目標に向かって、それぞれの立場で主体的に取り組む ～

地域
住民

保護者

学校

学校運営協議会の様子



地域が主催する「夏の学習会」 (国府小学校)



地域の方々による1年生の給食支援 (稲生小学校)



若松地域づくり協議会の方が消毒作業（若松小）



深伊沢地域づくりの取組

(鈴西小・加佐登小・椿小・深伊沢小)

【どろんこ, 田植え, 稲刈り, 餅つき, わらペンギンづくり】

・子どもの生の姿, 自由な活動, 子どものはちきれの笑顔

・鈴西小学校児童全員に案内



河曲地域づくり協議会の方による除草作業 (神戸中)



桜の苗木植樹（桜島小学校）



地域住民とともに 地域の未来を語るワークショップ (明生小学校)



地域の方の案内で海軍航空隊跡を見学する。 (旭が丘小学校)



神戸高校の生徒による学習支援 (神戸中学校)



10年を経過した鈴鹿市のコミュニティ・スクールを
より一層「協働型」の取組を進めていくために

『鈴鹿市コミュニティ・スクール研修会』

講師：CSマイスター高木先生

日時：5月14日(金)

子どもが主役の学校運営協議会づくりへ
～子どもたちへの「支援」から、子どもの「主体性」と
「協働」を軸に～

地域の願い・地域の目標は何だろうか？

将来の地域の担い手である

「**現在の子どもたち**」を

育てることが地域の役割

地域の子ども活動の弱点は何だろうか？

- ▶ 招待型活動：何もかも大人たちが準備
- ▶ 打ち上げ花火型活動：面白そうな活動を大人が準備
- ▶ 帳面消し型活動：一年交替の役員が去年をまねて実施
- ▶ おもらい型活動：お菓子や飲み物で子どもをつる

子どもは「お客さん」？

『鈴鹿市コミュニティ・スクール研修会』から

お客さんから脱却する家庭・地域・学校づくり

家庭では：「お手伝い」でなく

「家庭の一員としての仕事」を。

地域自治会では：子どもを「自治の一員」として
向き合い託しましょう。

学校では：「自分のことは自分でします」

「自分でできることは手伝いません」

そのために、家庭・地域にも理解しやすい

「具体的な目標の設定」を熟議でめざそう

具体的な目標設定 《三鷹中央学園の例》

目標：地域・社会に貢献する人 地域を愛する心と態度を育む

学校での取組	<ol style="list-style-type: none">1.委員会や係活動で自分の役割をもって行動できるようにする2.学校行事を通して成長できる環境をつくる3.防災訓練を行い、災害に備える
子どもたちの取組	<ol style="list-style-type: none">1.ボランティアに参加する2.自分から進んであいさつをする3.交通ルールを守る
家庭での取組	<ol style="list-style-type: none">1.交通ルールを守って安全に登下校できるようにする2.大人が子供に挨拶などの手本を示す
地域での取組	<ol style="list-style-type: none">1.防災の取組を広げ、災害に備える2.大人が子供に挨拶などの手本を示す3.安全で安心な環境を作る4.交通事故に合わない環境をつくる5.お祭りやイベントを通して、地域社会に貢献する意識を育む

学校と地域がパートナーとなることで・・・

共通の目標

積極的な取組

積極的な取組

学校と地域が
同じ目標に
向かっていける

地域

地域づくり

学校

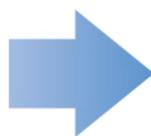
学校づくり

学校と地域が一体となって協力

学校と地域がパートナーとなることで…

保護者・地域住民等も教育の当事者になることで、責任感をもち、積極的に子供の教育に携わるようになる。

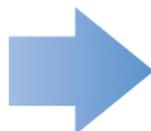
- 近所に元気のない様子の子供がいても、なかなか声をかけることができない
- 子供のマナーについて学校へ苦情の電話



- 積極的な声掛けや自ら指導する機会が増える
- 学校任せではなく、地域が学校とともに対策を考える

保護者・地域住民等が学校運営や教育活動へ参画することで、生きがいにつながり、子供たちの学びや体験が充実。

- 自分の経験を生かして学校や子供のサポートをしたいが、迷惑にならないか
- 地域の人と関わる機会が減ってきている
- 地域人材を活用した学習が単発で終わってしまう

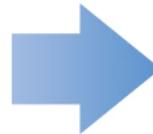


- 地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現する
- 学校を中心に地域がつながり、地域の活動が活発になる
- 地域の創意工夫や特性を生かすことで、学校での学びがより豊かで広がりを持つようになる

学校と地域がパートナーとなることで・・・

保護者・地域住民等と学校が“顔が見える”関係となり、
保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現。

- 一方的な意見が数多く学校に寄せられる
- 学校が保護者や地域住民の様々な要望の対応に追われている



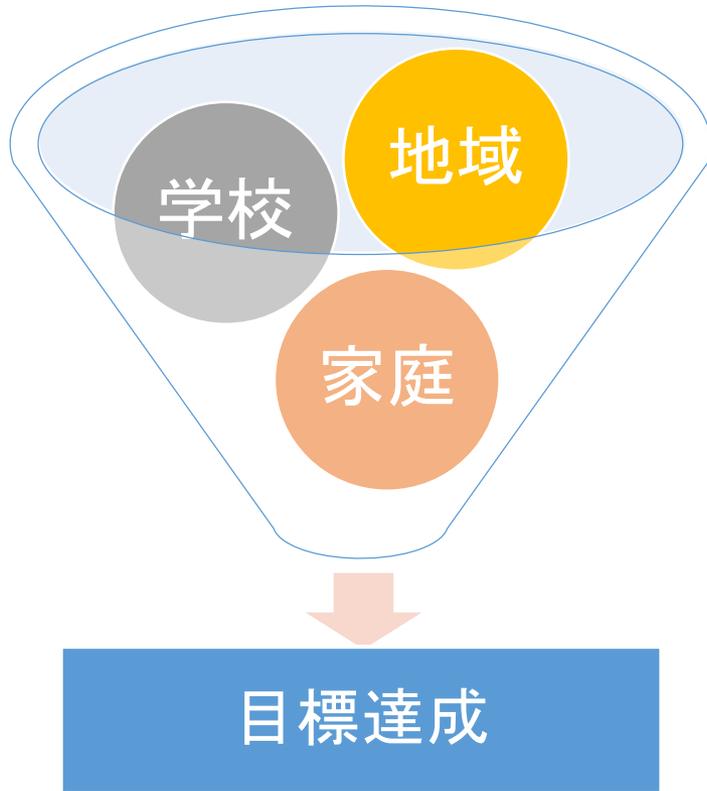
- 学校の現状や方針への理解が深まり、地域が学校の応援団になる
- 地域の協力により教職員が子供と向き合う時間が増える

その他にも・・・

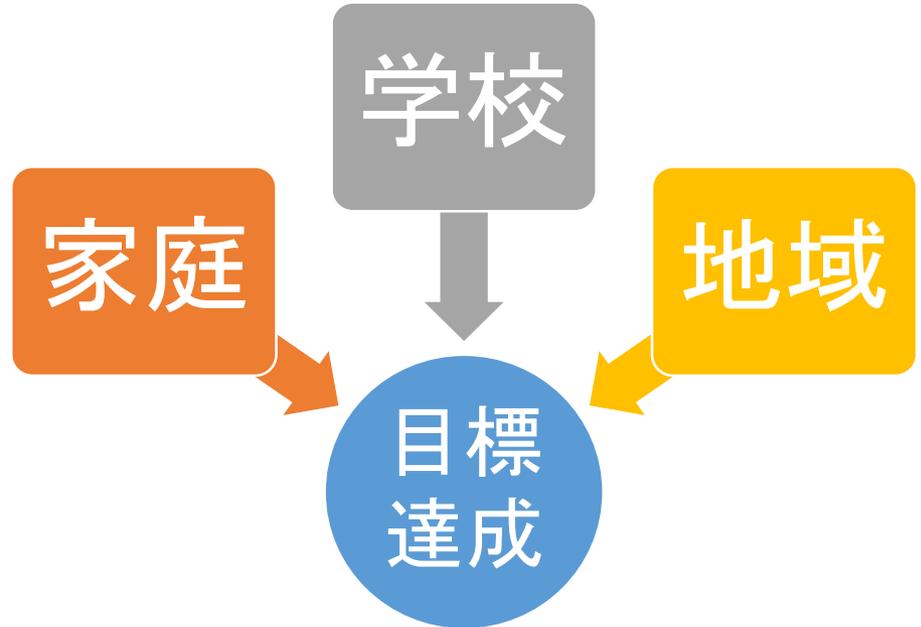
学校と地域の協力体制が築かれることで、生徒指導・防犯、防災等の面でも課題解決に向けて効果が期待されます。

将来の地域の担い手である子どもたちの育成

学校と地域がパートナー ≠ 一緒に活動すること



目標も一緒だけど
やることも一緒
↓
合わせるのが大変！！



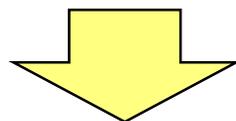
それぞれが
できる方法でアプローチ
↓
無理なく，持続可能！！

これからの鈴鹿市のコミュニティ・スクール

協働型コミュニティ・スクールについての理解

学校と地域が目標を共有

適切な役割分担を行い，主体的に活動



地域とともにある学校づくり